

なでしこ通信



令和6年1月10日発行

vol.188

三重県済生会明和病院なでしこ 〒515-0312 三重県多気郡明和町大字上野435

TEL・FAX : 0596-53-0010 メール : nadeshiko@meiwa-saiseikai.jp ※重症心身障害児(者)に特化しているため旧名称を記載しております



新年のご挨拶

みなさま、久しぶりの制限のないお正月はいかがお過ごしでしたでしょうか。何年振りかで親しい人の再会を楽しまれた方も多いいらっしゃると思います。とはいえ、昨年夏からずっと、何年分もの感染症が押し寄せ続けており、なかなか安心して過ごすのは難しいですね。なでし

こでは今まで通り感染対策に尽力しつつ、少しでも潤いのある毎日を送っていただけるよう取り組んでいます。長期入所の方の年齢が上がるにつれて医療度が上がり、コロナ禍以前と同じようにはいかないこともありますが、新しい形を模索しつつ、今年はクラウドファンディング

にも挑戦する予定です。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

(施設長：山川 紀子)



日中活動支援協議会 中部地区研修会

11月18日(土)に「令和5年度全国重症心身障害日中活動支援協議会中部地区研修会」をオンラインにて開催し、県内外の方々にご参加いただきました。なでしこでの日中活動の取り組みを紹介した後、第1部ではグループに分かれ、限られた時間

の中で個別性を大切に支援するための工夫点や問題点などについて情報交換を行いました。第2部はみえキッズ＆ファミリークリニック院長の岩本彰太郎先生より「医療的ケアの将来を見据えて」をテーマにご講演いただきました。岩本先生のお話の

中で「生きるだけの支援ではなく、普通の生活が過ごせるための支援が必要である」という言葉に、重症心身障がい児者の方やそのご家族に携わる一員として、身の引き締まる思いがしました。

(指導員：大西)





令和5年12月21日、家族さんと一緒にクリスマス会を開催しました。今回は、3部制に分かれて、それぞれの時間に合わせて家族さんにも参加をして頂きました。

クリスマス会

今年のテーマは、「スロー it バック! 目指せ! ミッションクリア!」一人一人に与えられたミッションをクリアしなければプレゼントはもらえません!

各自に与えられたミッションを家族さんと一緒にクリアできるように取り組んで頂きました。

家族さんと一緒にできる事が嬉しいくて、声を出して笑っている姿や、白熱のあまり家族さんの方が必死になっている姿も見られたり、それぞれに、とても賑やかなミッションを味わうことができました。

結果は…全員がミッションクリ

ア! サンタさんが登場し、一人ずつプレゼントを受け取ることができました。

そして、締めくくりは家族さんが折ってくれた紙とんぼを持って「メリークリスマス!」と掛け声に合わせて投げました。色鮮やかにきらきらと回りながら落ちていく様子を楽しみました。

また来年もサンタさんが来てくれるといいな。

(保育士主任：田端)



秋晴れのよい気候に恵まれた11月16日(木)に、なでしこでは年に1度のイベントである家族の会後援のデザートバイキングが行われました。

今年のメインメニューはロール

デザートバイキング

ケーキです。視覚からも楽しめるようにと色彩り豊かな物を選びました。事前に利用者さん一人一人が担当職員と一緒にケーキを選び、それぞれにあった食事形態でいただきました。また、経管栄養の方は匂いを楽しんだり、生クリームを口にしたりして楽しみました。

利用者さんみんな笑顔や嬉しそうな表情が見られたり、自ら手を伸ばして食べたり、おかわりする様子な

ど明るく元気な姿がみられ、職員も一緒に楽しい時間を過ごす事ができました。

(保育士：畠地)



通所

謎解きクリスマス!?



今年も通所では12月14日から12月20日にクリスマス会を行いました。

今回は今までになかった謎解きクリスマスです！

まず登場したのは衣装を忘れた



サンタさん。そこにピエロが出てきて「みんながクイズに答えられたらサンタさんの服を返してあげる」と言い、みんなでクイズに挑戦しました。

易しいクイズから少し難しいクイズまでありましたが、職員と一緒に考えて全員が答える事が出来ました。真剣に悩んでいる表情やヒントを出して貰い「分かった！」となる表情、一人一人違った表情を見ることが出来ました。

クイズが終わるとスヌーズレン



を行い光や音楽でクリスマスの雰囲気を楽しみました。

最後にジングルベルの歌を皆で歌い一体感のあるクリスマス会になりました。

(介護士: 大形)



通所

ふれあい会



11月6～8日に児童発達支援の利用者さんを対象にふれあい会を開催しました。母子分離後、通所で過ごすお子さんの頑張っている姿を親御さんに見ていただきました。この日は、お母さんもお子さんと一緒に活動に参加。お母さ

んに甘えてみたり、頑張っている姿を見せたり。半日ではありましたが、普段あまり見られない表情や動きを見せてくれました。

また、日頃顔を合わす程度で話す機会も持てなか

った親御さん同士も、今回のふれあい会で育児の話などすることができて良かったとお話をいただきました。

今後もお子さんの頑張りを見てもらう

機会と親御さんとの交流を大切にしていきたいと思います。

(看護主任: 川崎)





「感謝の言葉を力に」

福祉ニュース障害福祉編2023年6月号より「スタッフ不足 運営厳しく 使命感持てる仲間に」の記事を紹介させていただきます。

たんの吸引や呼吸管理といった医療的ケアが必要な子どもを受け入れる重症心身障害児者デイサービス施設「OZデイしゅうなん」(周南市久米)が看護師などのスタッフ不足に悩み、厳しい運営を迫られている。日常的な介助が欠かせない、小さな命と真正面から向き合う日々だが、管理者は「ケアを通じて彼らの家族もサポートできる、使命感と誇りを持てる仕事。気負わず仲間に入ってほしい」と話している。この施設は児童指導員の資格を持つ看護師や保育士、作業療法士、理学療法士ら約10人のスタッフで運営し周南

圏域の約10人が利用している。施設によると看護師1人は退職の意向を示しており、別の看護師が応援に駆け付けてくれるものの妊娠中のため、利用者を抱えたり送迎車を運転したりするのも難しく、スタッフの確保が喫緊の課題という。施設見学には大勢訪れるが実際に接すると「私には難しい」と諦めるケースが多いそうです。人工呼吸器の取り扱いなど、高度な医療行為に対する怖さが背景にあるそうです。しかしながら管理者は「ここでの処置は普段利用者家族が自宅でしていることであり、看護師本来の仕事ができる場で、利用者家族から感謝される仕事はなかなかない」と話している。

私はこの記事で2つの共感で

きる言葉がありました。「人工呼吸器の取り扱い」「利用者家族からの感謝」です。なでしこに異動して初めて人工呼吸器の取り扱いにとても不安を感じ、怖いと思ったことも多々ありました。しかしながら、利用者家族からの「ありがとう」という感謝の言葉はとてもやりがいを増強する魔法の言葉であり、人工呼吸器の取り扱いについて前向きに学んでいこうと思うようになりました。

今後、なでしこにもスタッフの離職・スタッフ不足等の困難にぶつかることもあると思いますが、感謝の言葉を力に、ここ「なでしこ」で使命感ある看護師の仲間入りを果たしていきたいです。

(看護師：山本)

毎月発行の「福祉ニュース」に掲載されている記事の中から一つ選び、その内容や感じた事をリレー形式で載せていきます。

みえる輪ネット

～三重県南部医療的ケア地域支援連携会議～

12月17日(日)みえる輪ネットが開催されました。新型コロナウイルス感染拡大の影響によりオンライン開催となっていましたが、今回初めてハイブリッド研修会を行い、久しぶりに会場で参加者の皆さんと顔を合わせることができました。今回のテーマは“重度障がい児者の自立(自律)”。第一部では医療、教育、福祉、当事者それぞれの

立場から発表をしてもらい、第二部では第一部での内容を深めるため、オンライン参加者と会場の参加者を交えて意見交換を行いました。当事者の話の中で、普段から自立と自律について家族間で話し合われていること、できる限り自分の人生を自分で決めるようにサポートしていくこと、ライフステージに応じた自立(自律)を考えてきたこと

など知ることができ、重度の障がいを持ちながらも自立(自律)について向き合っている姿にとても感動しました。この会で重度の障がい児者の自立(自律)とは何なのか、それを支えるためにはどのようなサポートが必要なのかみんなで考える機会となりました。

(サービス管理責任者：倉井)

ご寄付をお願いいたします

当施設では、皆様からのご寄付を受け付けております。施設に賜りましたご寄付は当施設の利用者さんの日常がより充実したものになるよう職員一同大切に活用させていただきます。多くの皆様からのご支援を心よりお願い申し上げます。

※なでしこ通信の発行は3カ月に1回となります。 ※本誌に記入されている写真は本人又、家族の了承を得て使用しています。